

予備軍も増えている?!

# 気管支のアレルギー「咳ぜんそく」

ダニやホコリといったアレルゲンやたばこ、ストレスなどが原因とされる<sup>せき</sup>咳ぜんそく。慢性的な乾いた咳が続いている人は要注意。福山市の伊勢丘内科クリニック・高尾和志院長に「咳ぜんそく」について聞きました。

## Q1 咳ぜんそくが疑われるのはどんな咳ですか?

**A1** 咳には湿った咳と乾いた咳があります。湿った咳は肺炎や結核、慢性副鼻腔炎(蓄膿症)などの痰が出る咳です。痰を出そうとして生理的に起こるもので、一般的な咳止め薬が効きやすいです。咳ぜんそくは、アレルゲンの侵入によって気管支がけいれんして起こる「乾いた咳」なので、一般的な咳止め薬ではあまり効果がみられません。一定期間薬を飲んでも改善しないという人は、咳ぜんそくの疑いがあるので、検査を受けることをおすすめします。



## Q2 どんな検査をするのですか?

**A2** 咳ぜんそくの診断に胸部レントゲンやCTはほとんど役立ちません。「陰影」ではなく「呼吸機能異常」を発見しなければならないからです。診察では力いっぱい息を吐いてもらい、聴診で「ヒューツ」と音が聞こえるか、咳が誘発されるかといったことで、咳ぜんそくを疑います。肺機能検査では、息を勢いよく吐いた時にできる波形から「息の吐きにくさ」を確認し、気管支拡張薬を吸入して、それが改善したら咳ぜんそくの可能性が非常に高くなります。

最近では「呼気中NO濃度測定」が注目されています。NOとは一酸化窒素のこと。好酸球という咳ぜんそくの鍵をにぎる炎症細胞が気道炎症を起こしていると、呼気中濃度が上昇します。咳が出やすい他の病気(COPD、マイコプラズマなど)では上昇しないので、咳ぜんそく診断に大変役立ちます。



## Q3 咳ぜんそくを放置するとどうなりますか?

**A3** 無治療で4~5年放置すると約3割の人が「ゼーゼー」と発作を起こすようになります。治療不十分の場合には気管支が傷つき、治りにくい症状に進行する場合があります。咳ぜんそく治療は、せっかく始めてもいったん咳が落ち着くと治療を中断したり、再発しても軽く見て放置する人が少なくないのが現状です。治療により発作予防もできるので、医師の判断に従った継続治療をすることが大切です。

最近調子いいし  
もう治療しなくても  
いいかな!



アドバイス

伊勢丘内科クリニック  
院長 高尾和志



呼吸器・アレルギー専門医。開院から5カ月で300人以上のぜんそく患者を診断。CTや呼気NO濃度測定機器といった最新機器や、院内感染を防止するための専用感染対策待合室などを備えた環境で、質の高い医療を提供している。在宅酸素療法や睡眠時無呼吸症候群の治療も得意。福山市伊勢丘3丁目3-1(ハローズ伊勢丘モール内) ☎084-947-1159